

2022年度 事業報告 総括

特定非営利活動法人 丹のたね

この法人は、丹波市山南町にある笛路村で、里山の地の利を活かしながら共育（教育）活動をしています。今年度は、里山ようちえん（幼児クラス、親子クラス）別紙①と、今年度から開校したオルタナティブスクール里山楽校 別紙②、が竹岡農園の敷地を拠点として四季の遊びを中心に活動しました。

里山ようちえんは開設から4年経ち、屋外保育としてのノウハウが習得され、サポート体制も充分になってきています。参加する子ども達は皆子どもらしく、自然の中で身体を思いっきり動かし、生き生きと成長している姿が見られました。

また、里山楽校は里山ようちえんの子ども達の卒業生が出て来たことで、小学部以上の居場所や自然体験を深める機会を里山に創っていきたいという思いで開設しました。

保護者の中に教員経験者が多いことで、相談にものって頂きながら、里山環境と我々の活動している拠点で子ども達に何が出来るかを色々とチャレンジした年です。

本年は手ごたえを感じた部分と、あまり手ごたえを感じなかった部分がありましたが、来年度に引き続きチャレンジしていきたいと考えています。

○里山ようちえん ふえっこ

内容：森のようちえん

活動日：火曜日～金曜日

対象者：3歳児～5歳児とそのご家族

年間会費合計：5,420,976円

○里山楽校 ふえっこ

内容：オルタナティブスクール

活動日：火曜日～金曜日

対象者：小学生、中学生とそのご家族

会費：無料解放

ドネーション 130,097円 その他物資

○ボランティア人数

年間延べ 2,431人

○会員

・正会員 10名

・賛助会員 22名

○連携グループ

・合同会社 丹波笛路村

・森のようちえん ころね

○来年度の運営体制

里山ようちえんと里山楽校の教育事業を中心とした活動となり、設立時の定款の内容と実態が変わってきているため、来年度定款の変更に伴い、理事体制の内容も変更していく予定です。

2022年度 「里山ようちえん ふえっこ」 活動報告

特定非営利活動法人 丹のたね

里山ようちえんふえっこは、丹波市山南町谷川にある笛路村、竹岡農園の敷地を拠点として自然の中での遊びを中心に活動しています。

四季を感じながら村の中を散歩したり、草花あそびや野草や様々な実を食したり、畑の野菜収穫や川あそびなど、冬場は毎日たき火をするなどして過ごしています。

季節の遊びを中心に、自然にあるものを使って自分たちで遊びを考え、創りだしながら遊び、幼児期に五感をつかって遊ぶことを大切にしています。異年齢での保育であるため、年長児は下の子をお世話したり引っ張っていこうとする気持ちが芽生えたり、年少の子どもたちは上の子の姿を見て真似を試みようと、ついていこうとしながら遊びを覚えていっています。また少人数のため、それぞれが友だちとの関わりも深くなり、よく互いを理解している関係性がつくられていっています。

○幼児クラス

活動日：火・水・木・金曜日 9：00～15：00

人数：(3歳児) 2名、(4歳児) 3名、(5歳児) 3名 計 8名

・週一クラス

活動日：毎週水曜日 9：00～15：00

人数：(3歳児) 2名、(4歳児) 1名 計3名

4年目となる幼児クラスは、自分たちでつくりだす遊びが定着しつつあり、大人が見本となるのではなく、子どもが子どもの見本となる姿が多く見られるようになりました。

また、今年度の取り組みとして、週1日のみ登園する「週1クラス」を開設しました。遠方からのお越しで、毎日通うのは難しいが自然の中でのあそびを経験してほしいといったご家庭のお子さんなどが、毎日通っているお子さんたちと一緒に里山で過ごしました。

【1学期】

(入園式、野草天ぷら、泥んこあそび、田植え、川遊び、野菜の植え付け、梅もぎ、泡あそび、父親ボランティアデー、七夕製作、ボディペインティング)

3、4、5歳の異年齢で活動している幼児クラスは、4月は新たなメンバーとなって、それぞれが場所の雰囲気や新しい友だちに慣れるまで、ゆったりと活動場所の広場で遊びます。

春は毎年恒例の野遊び研究科のマリオさんに教えてもらいながらの野草天ぷらの行事を行いました。散策しながら笛路村に自生している食べられる野草(ノビル、カキドオシ、お茶の葉、ユキノシタ、クズ、タンポポ、甘草、シロツメクサなど)を摘みてんぷらにして頂きました。毎年同じ時期に同じものを摘んで頂くことで、子どもたちも自然に食べられるものがわかるようになっていきます。

また田植え前の田んぼでの泥んこあそびやボディーペインティング、泡あそびなど、夏は全身で思いっきり感触を楽しみながら遊び、川遊びでは笛路村の中でも場所を変えながら過ごし、沢登りでは全身をつかいながら登って行くので体感も鍛えられ、年齢があがるごとに登るスピードも速くなっています。

父親ボランティアデーとして、土曜日にお父さんたちに来ていただいて、活動場所である広場で使える遊具(ベンチになる平均台)を木材を使って制作していただきました。



【2学期】

(稲刈り、親子登山、運動会、お泊まり保育、おもちつき、クリスマス会、)

2学期は親子で参加する行事も多く、これを通して子どもたち自身が成長していく姿を親御さんにも見ていただくことが出来る機会がたくさんありました。運動会までの期間には、広場に鉄棒や平均台などの遊具を設置し、繰り返し練習しようとする子の姿もみられ、また年長児が意欲的に取り組んでいる様子を見て下の子が真似をしようとする姿もあり、子どもが子どものお手本となる形がつくられ始めようとしている行事となりました。

日常の遊びでは、木登りをしたり、広場上にある栗の木で栗拾いをして、たき火で焼いて頂いたり、笛路村の中間にある力キの木の所まで散歩に行き、自分で収穫して頂くなど、秋の味覚を存分に味わうことができました。また冬にかけては毎朝登園したら近くの杉林まで行き、焚き付けのために枯れて落ちているスギのはっぱを集めに行き、たき火をすることが習慣となってきました。そのため、よくたき火に関わっている子は、必要な物や火をつける方法などがよく身に付き、自分たちだけで火をつけたり、絶やさないように火の守りをしたりが出来るようになりました。



【3学期】

(雪あそび、節分、味噌作り、他園との交流、イス作り、お別れ遠足、お別れ会、卒園登山、卒園式)

1月は例年になくたくさん雪が降り積もりました。協力してかまくらを作ったり、雪合戦や雪かきを楽しんだりし、また普段は散歩をしている坂道でそり滑りもすることができました。同じ場所でも季節が変わると色々な違う遊びをすることが出来る環境の中で、友だちと一緒に数日に渡って雪遊びを楽しむことができました。

また今年度初の試みで、兵庫のこども園さんの遠足の受け入れをしながら子ども同士の交流の場を設けました。自然の中で遊ぶ機会の少ないお子さんたちに里山での遊びを楽しんでもらえるよう、一緒にお散歩をしながら草花あそびや林の中の散策をしました。初めてのことに興味津々の友だちに対してふえっこの子どもたちが、自分たちのフィールドでよく知っている遊びや草花のことを教えてあげる姿が自然と出てきました。教えてあげて喜んでもらえたことがそれぞれの自信に繋がるとても良い機会となりました。

年長児は、卒園前に木材を使ってイスの製作をしました。

2学期から3学期にかけては、お互いのことも良くわかってきていて、友だちの存在も大きくなってきていました。友だちがしようとしていることに気がついたら頼まれていなくても手伝ってみたり、困っている子がいたら助けたりみんなに知らせたりという姿が自然と生まれてきていて、少人数ならではの関係性がつくられていっているように思います。



【年間を通して】

(お料理の日)

月に1回、たき火でお味噌汁を作りご飯を炊く日を設けています。竹岡農園の畑で野菜を収穫する所から始まり、洗って包丁で切ってお味噌汁を作り、火起こしをして釜戸でご飯を炊いています。お味噌汁の味噌は、自分たちで仕込んだものを使っています。この一連を毎月繰り返すことで、作り方も身に付き、自信を持って取り組めるようになっていきます。



（誕生会）

それぞれの誕生月に保護者にもお越しいただき、1人1人の誕生会を開催しています。保護者にはお子さんの産まれた時のお話やその子にまつわるクイズや紙芝居などをしてもらうなどして、本人が自分は大切な存在なのだと感じられるようにというねらいがあり、親子で成長を振り返る機会となっています。



（茶話会）

保護者とスタッフで話をする茶話会を隔月で開催しています。日々子どもたちの様子をお伝えし、ご家庭でのお子さんの様子を共有し合う機会としました。また教育や環境に関連した映画を見てそのテーマに沿って感想や意見、考えていることなどを共有し合う機会を設けたり、子どもたちの活動場所を遊びやすい環境にするために竹林の伐採を一緒に行うなどの取り組みもしていきました。

○親子クラス

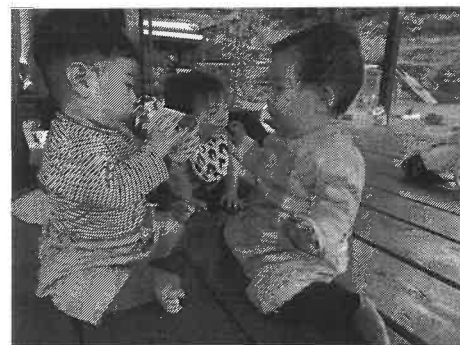
活動日：月3回 金曜日 10:00～13:30

人数：親子 9組

0歳から2歳のお子さんがおられるご家庭を対象に、お母さんと一緒に参加するクラスです。

参加者のお母さんの中から取りまとめ役を選出し、リーダーを中心としてお母さんたちがやりたいこと、子どもたちが楽しめることなどを相談して活動しています。

季節の遊びや手仕事、野外調理を取り入れるなどして、活動をしなが
ら、またはお昼ご飯を食べながら和気あいあいとした雰囲気ですべての話などをして親睦を深めています。



○芸術クラス

活動日：月2回 月曜日 9:00～13:00

人数：(5歳児) 2名、

場所：山南町玉巻にある民家

基本は室内での活動となり、絵具や粘土やグルーガンなど、様々な素材や技法を使っのてのアートを楽しみました。

【まとめ】

幼児クラスは立ち上げから4年が経ち、子どもたちのコミュニティの安定した形ができてきたように思います。四季によって毎年同じ遊びを経験していく中で、上の子は自分が知っている遊びに親しみをもって取り組んでいて、その楽しんでいる様子を見て下の子たちも真似をしていくようになっていきます。またこれまでは子ども同士のトラブルやまだ出来ないことなどを大人が間に入って話をしていたり手伝ったりすることが多かったのですが、今、友だちのことに友だちが気づいて声をかけにいたり、仲立ちをしたりしながら関わっていかうとする姿が多く見られるようになりました。まずは大人が見本になっていた時期から、子どもが子どもの見本になって遊び方や関係性を受け継いでいけるようになってきたように思います。

今年度は金曜日に幼児クラスと親子クラスが同じフィールドで活動していました。年齢の差があるため常に同じ活動をするわけではありませんでした。お互いのクラスの雰囲気や毎週感じることもでき、時間帯や活動内容によっては一緒にあそんだり関わりも多くもつことができました。

次年度には、2名のお子さんが親子クラスから幼児クラスに入園することになりました。里山ようちえんの基盤である親子クラスから幼児クラスへの入園に繋がったことが大きな成果だと感じています。

【今後の課題】

今年度より里山楽校が開校し、小学生も同じ敷地内で毎日活動するようになりました。日々顔を合わせて親しみはあるものの、里山楽校との関わりを多くもつことがなかったため、次年度では連携をしていながら繋がりのある共育としていくことが課題です。

また次年度は2歳児クラスを立ち上げることとなり、幼児クラスより低い年齢の子たちとの関わりも出てくるように思います。幼児クラスにとっては、可愛くてお世話をしあげようと思う下の子の存在や、かっこよくて憧れる上の子の存在が日常的にあるので、コミュニケーションの幅がさらに広がるように思います。この環境を活かしながらの取り組みをしていきたいと考えています。

また、里山ようちえんの認知を広げることも課題となり、SNSなどで日々の様子を発信していくことと、イベントなどを行うことで、自然体験の楽しさを沢山の方に知っていただけるように取り組んでいきたいと思っています。

2022年度 里山楽校 事業報告

特定非営利活動法人丹のたね

I 事業期間

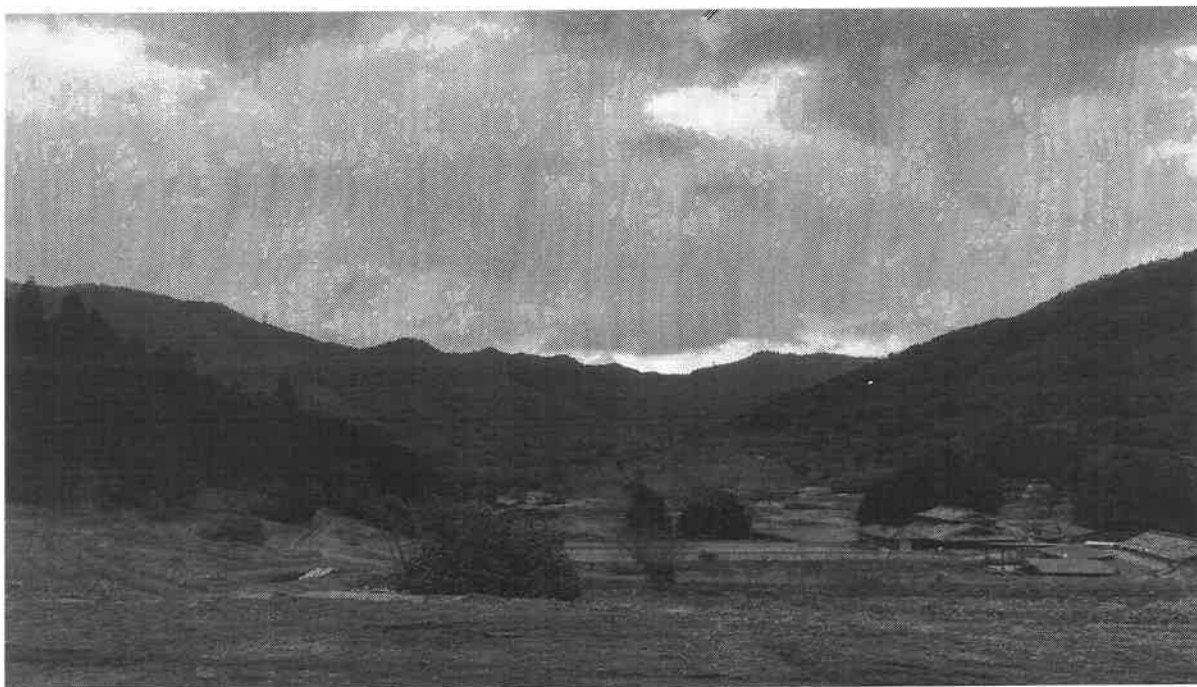
令和4年 4月1日～ 令和5年 3月31日

II 事業成果

里山楽校は2022年4月9日に開校したオルタナティブスクールです。一年ごとに開校し、閉校します。「自然が先生」と「みんなで作る遊びの楽校」を合い言葉に、丹波市笛路村にある竹岡農園の里山（畑や川、田んぼ、竹林、針葉樹や広葉樹）で活動をしています。

活動日：火曜日～金曜日(9:00～15:00)活動日数：154日間（不定期のイベントも含む）

参加人数：子ども16名（小学1年～4年、体験入楽含む）、大人10名



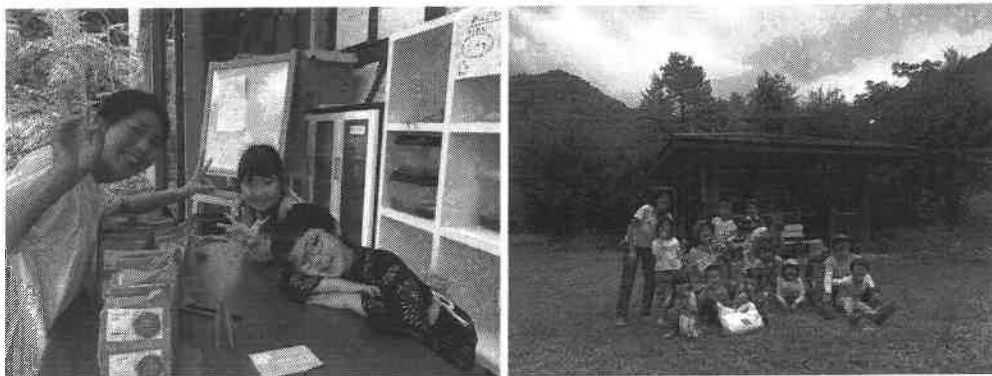
【日常活動について一学期ごと一】

一学期

（開校式、野草の天ぷら、どろんこ遊び、川遊び、田植え、イタドリのジャム作り、竹の水鉄砲づくり、スラックライン、源流の川遊び、里山マルシェ第一回、遠足、イケてる大人を呼ぶ企画など）

最初は、子どもたち六人（1～4年生）で約一か月間の慣らし期間（9:00～13:00）からスタートしました。お互い初対面で、里山というフィールドになじみのある子もな

い子もいる中でのスタートだったため、「安心・安全の場を作る」、「遊びの選択肢を増やす」の二つを合言葉に、まずはフィールドに慣れていくことから始めました。川を上流に向かってひたすら上がっていったり、木と木の間にはスラックラインを張って身体全体で揺らすのを楽しんだり、野草を積んでてんぷらにして食べるなど、里山ならではの遊びを思い切り楽しみました。その中で、野草天ぷらをきっかけに野菜が食べられるようになった子がいたり、一緒になって遊ぶ中で言いたいことが言えるようになっていたりするなどの変化が見られました。また、7月にはドネーション活動の一環として里山マルシェを開催し、子どもたち発案の「宝探しゲーム」を里山楽校のお店として出店しました。当日は景品係、ゲーム係、説明係に分担してお店をやり、お店に来ていただいたお客様からは子どもたちがいきいきしているなどのお声をいただきました。



二学期

(秋の登山、遠足、里山マルシェ第二回、マラソン大会、おもちつき、料理対決など)

二学期は、子どもたちが少しずつ里山のフィールドに慣れ、子どもたちの関係性にも安定感がみられて来たこともあり、活動のフィールドの範囲を広げていきました。丹波市の隣の山に登ったり、いつも活動しているフィールドからもう少し森に入ったところに秘密基地を作ったり、電車に乗って隣の市の公園に出かけたりしました。また、新しく体験に来るメンバーも増え、多いときは活動人数が8-10人になるところもありました。そうした中で、子どもたちだけで夢中になって遊ぶ時間が増え、自分達で工夫して遊んだり、ケンカを通して仲が深まったりしていきました。また、第二回のマルシェでは、10歳以上の子どもたちは自分達でお店を出すことにチャレンジしました。一か月ほど前から少しずつ企画・準備を重ね、当日の前日には「(お客さん)来てくれるかな」と心配するくらい、熱い気持ちで取り組んでいました。彼らの出したスーパーボール掬いや射的などのお店は子どもたちにとっても好評で、たくさんのお客様に来てもらいました。そうした中で、お店を出して人に喜んでもらう喜びや、人のためにしたことが自分のもたに代価となって戻ってくる手ごたえを感じている様子でした。マルシェ後には良かったことや、改善点等の振り返りを行い、こうしたらもっとよくなるなど具体的に考えることができていました。



三学期

(雪遊び、スラックライン、野外調理、版画制作、ようちえんの子と合同登山)

三学期は、新しいメンバーも増え、活動拠点を小屋のデッキから森に近い倉庫の二階へ活動拠点を移した形でスタートしました。新年早々、例年になく大雪が降り、そり滑りや雪合戦、かまくら作りなど雪遊びを思い切り楽しみました。特に雪合戦ではただ当て合いっこをする単純なものから、雪玉何個、陣地はここからここまでというルールを具体的に決めたものまで、さまざまなバリエーションを工夫しながら楽しみました。また、「一年間の思い出」制作として、一番印象に残ったシーンや場所、風景を版画にすることを行いました。小学校一年生から四年生まで、それぞれ想いのこもった作品が仕上がりました。そして、最後の締めくくりの閉校式では思い出に残ったことをスライドショー付きで発表し、合唱をみんなで歌い、保護者の方やスタッフ、子どもたち同士に感謝の気持ちを伝えました。



【日常活動についてーまとめー】

一年を通して自然（畑、川、林、森）の中でさまざまな遊びをしました。春にはノビルを掘って食べたり、夏にはサワガニを捕まえたり、秋には柿や栗を取ったり、冬には雪の上でそりすべりをしたりしました。四季を通じた自然の中での遊びを通して、子どもたちは生き物や植物に対する興味関心が育ち、自分達で遊びを作り出すことが出来るようになりました。（木の枝でチャンバラごっこ、秘密基地づくり、おにごっこなど）

また、幼小接続の取り組みとして、ようちえんの子との合同活動を行いました。（合同散歩、運動会・お泊り保育サポート、おもちつき、合同登山など）合同散歩では、ようちえんの子のためにムカゴを多くとってあげたり、お泊り保育では、子どもたち発案の出し物として手づくりの紙芝居や漫才、マジックを披露してようちえんの子を楽しませたり、合同登山

では最後までようちえんのペアのこの手を引いて歩くなど、自分よりも下の年齢の子に対する思いやりの姿や、自分の持ち味を生かして仲間と協力して一つの事に向かっていく姿が見られました。

また、子どもたちの発案したイベントで二学期に料理対決、三学期には百人一首大会を開催しました。料理対決では小学一年生の子から四年生の子までが家で練習してきた料理を披露し、男女のチームに分かれ、ポイント制で競いました。ムクの実のジャムを使ったパンケーキや、大豆から作った豆乳プリン、農園の野菜を使った炊き込みご飯など、里山でとれた食材を使ってどの子どもも工夫を凝らした料理を一生懸命作っていました。最後にはみんなで美味しく試食会をしました。三学期の百人一首大会では総当たり戦を行い、はじめて百人一首をした子どももそうでない子どもも本気の集中力で戦いました。始めはしたくないと言っていた子どもたちもいましたが、最後にはみんなの輪の中に入り、楽しんでいる様子でした。

年度末には1年のまとめとして「里山楽校1年間の思い出」の版画を製作しました。川遊びや沢ガニ、山と虹など思い思いの作品をカー杯仕上げました。そして、最後の日に閉校式を行いました。閉校式では、1年のまとめの発表や合唱の発表をしました。

【非日常の活動について】

●修楽旅行

「修楽旅行」とは、子どもたちが旅行の企画を練って、プレゼンし、親御さんに審議していただき旅費を獲得するというイベントです。小学校1年生～4年生の子どもたち6人が参加しました。最初は意見がバラバラで行き先もなかなか決まらない状態でしたが、話し合いを重ねるにつれて、徐々に「みんなで美味しいものを食べたい」という方向性に定まってきました。見学に行きたい場所に電話をかけたり、行き先までの交通路を調べたりと子どもたち自身が主体的に行動していました。結果的に安全性の面から子どもたちの企画した計画全てが叶えられることはありませんでしたが、1日だけ予定していたキャンプ場へ行き、魚釣りやBBQをして無事に帰ってくることが出来ました。その後、プレゼンを作って発表し、子どもたちは、自分達で企画を立てて実行することの難しさやそのやりがいを感じている様子でした。



●里山マルシェ

里山マルシェとは、売り上げの一部を里山楽校の運営・活動費に寄付するドネーション型のマルシェで、子どもも大人も出店することが出来るマルシェです。里山コインという独自通貨を流通させることで、子どもも大人も普段当たり前としている「お金」について一度捉え直すことのできるしくみになっています。夏と秋に一回ずつ開催し、里山楽校の子どもたちは夏に「宝探し」、秋に「マフィン屋さん」と「スーパーボールすくい」のお店を出店しました。1～2カ月前から準備を始め、当日は沢山のお客さんに来てもらう事が出来ました。お店以外にも、唄や踊りなどのパフォーマンスに挑戦しました。それらのイベントを通して子どもたちはお金や経済活動への関心が高まるとともに、人前に立って出ることや人と交流することへの自信が育ちました。



●イケてる大人の話を聞こう

「イケてる大人の話を聞こう」では、著名であるかどうかに関わりなく、人生を楽しんで生きている大人に講師として来てもらい、大人になることや成長することへの憧れをもたせるという趣旨の元、5名の「イケてる大人」にお越し頂き、体験型のワークショップをして頂きました。劇音楽作家さん、落語家さん、プロの演奏者の方など様々な職種の大人の方に来て頂き、子どもたちと交流を深めました。このイベントを機に、マジックをするようになった子どもが居たり、人前で歌うことへの憧れが生まれた子どもも居ました。「イケてる大

人」への質問紙を作ってもってくるなど、興味を持って積極的に参加している様子もありました。

イケてる大人一覧（2022年度）

日付	名前	内容
5/20（金）	渡邊崇さん	劇音楽
6/2（木）	笑福亭智之助さん	落語とマジック
6/28（火）	植松葉子さん	音楽で遊ぼう
7/19（火）	BOSS	ココロとカラダのつながり
9/15（木）	三輪知子さん	精麻



●今後の課題

今後の課題としては、「親子クラスや里山ようちえんとの連携を強めていくこと」、「10歳以上の子どもたちを遊びのリーダーに育てること」、「村の人との関わりを増やすこと」の三つがあります。

NPO法人丹のたねの大きな特徴の一つとして、同じ里山というフィールドに乳児、幼児、児童の全員が集まっていることが挙げられます。この大きな強みを生かしていきたいと考えています。子どもたちにとって年上の存在や年下の存在はとても大きいです。「親子クラスや里山ようちえんとの連携を強めていくこと」で、年齢の異なる子どもたちの関わりを増やしたり、里山における個々の活動の充実度が向上することを目指します。

また、10歳以上の子どもたちは、今年度イベントを企画したり里山マルシェで自分達のお店を作ることが出来ていました。そんな彼らの力をパワーアップさせるため、来年度は開校前にリーダー研修を企画し、「10歳以上の子どもたちを遊びのリーダーに育てること」を目指します。

里山楽校のフィールドである笛路村での活動は、笛路村の方々のご協力があって成り立っています。そんな背景を子どもたちに知ってもらうため、またこれからも楽校の活動を村の方々に応援して頂くため、また子どもたちと村の方々との繋がりを作るため、「村の人との関わりを増やすこと」を大切にします。その取り組みの一環として来年度は、集合場所を竹岡農園の駐車場から、笛路村の入り口付近にすることを検討しています。それによって、登校時の道中に村の人に挨拶をしたり、話ができたりすることを増やせるのではないかと考えています。

●活動費（年間）

【ドネーション決算】

○ドネーション支出

ホワイトボードマーカー（8/25） 110円

両面コルクボード（9/12） 1180円

交通費（遠足 並木道公園9/14 こども4、大人1） 720円

イケてる大人「精麻」（9/15） 900円

みそ（9/6） 419円

豆乳ヨーグルト（9/20） 257円

卵3パック（11/10） 738円

ベーキングパウダー（11/10） 254円

マルシェ費用（第二回） 2528円

のこぎり 2480円

竹のこぎり2178円

だし醤油 1141円

アルミホイール 85円

一輪車 4,480円

電気設置代 101,000円

積み立て 11,627円

計130,097円

特定非営利活動法人計算書類

活動計算書

貸借対照表

財務諸表の注記

財産目録

令和4年度

特定非営利活動法人 丹のたね

活動計算書

令和4年4月1日から令和5年03月31日まで

(単位：円)

科目	金額		
I. 経常収益			
1. 受取会費		4,359,550	
2. 事業収益		128,000	
3. 受取利息	14		
4. 雑収益	933,412		
5. その他収益		933,426	
経常収益計			5,420,976
II. 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給与手当	1,986,000		
臨時雇賃金	1,117,210		
法定福利費	181,778		
福利厚生費	4,850		
人件費計	3,289,838		
(2) その他経費			
車両費	318,912		
業務委託費	412,018		
支払保険料	115,050		
食材費	139,619		
消耗品費	346,392		
賃借料	450,000		
施設維持費	436,502		
雑費	308,489		
その他経費計	2,526,982		
事業費計		5,816,820	
2. 管理費			
支払報酬料	231,000		
減価償却費	168,750		
雑費	77,624		
管理費計		477,374	
経常費用計			6,294,194
当期経常増減額			▲ 873,218
III. 経常外収益			
経常外収益計			—
IV. 経常外費用			
経常外費用計			—
税引前当期正味財産増減額			▲ 873,218
法人税、住民税及び事業税			—
当期正味財産増減額			▲ 873,218
前期繰越正味財産額			264,315
次期繰越正味財産額			▲ 608,903

貸借対照表

令和5年03月31日現在

(単位：円)

科目	特定非営利活動に係る事業		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,199,697		
積立金	6,000		
流動資産合計		1,205,697	
2. 固定資産			
有形固定資産			
建物附属設備	843,762		
有形固定資産計	843,762		
投資その他の資産			
出資金	200		
投資その他の資産計	200		
固定資産合計		843,962	
資産合計			2,049,659
II. 負債の部			
1. 流動負債			
1年以内返済長期借入金	768,000		
その他流動負債	71,562		
流動負債合計		839,562	
2. 固定負債			
長期借入金	1,819,000		
固定負債合計		1,819,000	
負債合計			2,658,562
III. 正味財産の部			
前期繰越正味財産		264,315	
当期正味財産増減額		▲ 873,218	
正味財産合計			▲ 608,903
負債・正味財産合計			2,049,659

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

(1)固定資産の減価償却の方法 有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。

(2)消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は税込経理方式によっています。

2. 事業費の内訳

事業費は特定非営利活動に係る事業のみであり、その他の事業はありません。

特定非営利活動に係る事業は保育事業のみであるため、事業ごとの区分はありません。

3. 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
建物附属設備	1,350,000	—	—	1,350,000	506,238	843,762
投資その他の資産						
出資金	—	200	—	200	—	200
合計	1,350,000	200	—	1,350,200	506,238	843,962

3. 借入金の増減内訳

(単位：円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
借入金	3,355,000	—	768,000	2,587,000

4. 役員及びその近親者との取引の内訳

(単位：円)

科目	財務諸表に 計上された金額	内、役員との取引	内、近親者及び 支配法人との取引
(活動計算書)			
給与手当(事業費)	1,986,000	—	720,000
賃借料(事業費)	450,000	—	450,000
活動計算書計	2,436,000	—	1,170,000

財産目録

令和5年03月31日現在

科目	特定非営利活動に係る事業		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
手許現金	45,186		
ゆうちょ銀行	226,270		
丹波ひかみ農業協同組合	868,241		
中兵庫信用金庫	60,000		
積立金	6,000		
流動資産合計		1,205,697	
2. 固定資産			
有形固定資産			
建物附属設備			
日除け設備	843,762		
有形固定資産計	843,762		
投資その他の資産			
出資金	200		
投資その他の資産計	200		
固定資産合計		843,962	
資産合計			2,049,659
II. 負債の部			
1. 流動負債			
1年以内返済長期借入金			
日本政策金融公庫	768,000		
未払金等	71,562		
流動負債合計		839,562	
2. 固定負債			
長期借入金			
日本政策金融公庫	1,819,000		
固定負債合計		1,819,000	
負債合計			2,658,562
III. 正味財産の部			
前期繰越正味財産		264,315	
当期正味財産増減額		▲ 873,218	
正味財産合計			▲ 608,903
負債・正味財産合計			2,049,659

役員名簿

特定非営利活動法人 丹のたね

役名	氏名	住所又は居所	就任期間	報酬の有無
理事長	たけおかまさゆき	[REDACTED]	令和4年4月1日～	無
	竹岡正行		令和5年3月31日	
副理事長	やまさきはると	[REDACTED]	令和4年4月1日～	無
	山崎春人		令和5年3月31日	
理事	よねだあさと	[REDACTED]	令和4年4月1日～	無
	米田麻人		令和5年3月31日	
監事	はなだきょうへい	[REDACTED]	令和4年4月1日～	無
	花田匡平		令和5年3月31日	

前事業年度の末日における社員のうち10人以上の者の名簿

令和5年 3月 31日 現在

特定非営利活動法人 丹のたね

氏 名	住所又は居所
尾崎真理	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
田中和美	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
米田麻人	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
山崎春人	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
清水真有子	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
石見雅	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
椴木舞	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
中山貴美子	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
吉村康太	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
竹岡郁子	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1